社会的な価値観の変化への対応

山下設計の創立90周年（2018年）から、95周年（2023年）に至る5年間で、
建設業界を取り巻く社会的情勢は、大きく変化しました。
特に、新型コロナウイルス感染症の拡大は、日本社会で停滞していた働き方改革が進む契機となりました。
その結果、オフィス／自宅／サードプレイスなど複数の空間から「働く場所」を選択できるようになり、
空間の「選択性の高さ」が求められるようになりました。
本紙では、山下設計が近年設計した作品の紹介を通し、創立100周年以降の未来に向けて、
社会的な価値観の変化に対する方向性を示します。

撮影／根本健太郎写真事務所

撮影／フォト・ビューロー

立命館大学大阪いばらきキャンパス

■建築主／立命館
■構造／S一部SRC造
■規模／地上9階
110,202㎡
■基本計画・設計監修／
立命館キャンパス計画室
■実施設計・監理／竹中工務店
■ランドスケープ設計協力／戸田芳樹風景計画
■照明計画（市街地整備施設）／AZU設計工房
■施工／【建築】竹中工務店
【電気】きんでん、住友電設、朝陽電気
【空調】三晃空調、新菱冷熱工業、
新日本空調、高砂熱学工業
【衛生】須賀工業、大阪城口研究所
■竣工／2015年3月
■業務／基本設計・設計監理統括

真に地域の一部となる「まぜる」キャンパス

伊藤 玲央
本社
第2設計部
主管

官民（茨木市、立命館大学、UR都市機構）一体の街づくりの中心となる再開発プロジェクトとして、防災公園とそれをL字に取り囲むように大学施設が整備された。塀をなくし、大学と公園が一体になる空間構成により、真に地域の一部となるキャンパスを目指した。キャンパスを貫く動線かつ交流スペース「コンコース」を中心に構成され、キャンパス拡張に対してもコンセプトを崩さずに拡張可能な持続性の高い構成としている。地域住民の日常利用と学生活動がまざりあい、魅力的な共存が生まれており、「多様な価値観と出会う・交流する」といったリアルな空間の持つ価値を最大化させ、今後の大学キャンパスの在り方の新たなモデルとなっている。

写真提供／立飛

GREEN SPRINGS

■建築主／立飛ホールディングス
■構造／S・RC・CFT・SRC造
■規模／地下1階 地上11階 76,297㎡
■規模／地下1階 地上11階 76,297㎡
■マスターデザイン／スタジオタクシミズ、
ランドスケープ・プラス
■施工／大林組
■竣工／2020年2月
■業務／PM・監理、設計（山下設計・大林組JV）

圧倒的な緑と水に囲まれたパブリックスペースの創出

木原 紗知
本社
第3設計部
主管

計画地は、JR立川駅北側の国営昭和記念公園と多摩都市モノレールの間に位置する南北約400m・東西約100mの場所である。駅前のメガスケールの都市景観と国営昭和記念公園の豊かな緑との間にある場所性を考慮し、街との連続性と緑豊かな景観形成を施設デザインの骨格に据えた。公共性が高く、市民のより所となる場所として、街区の中心に約1haもの広さを誇る緑豊かな広場を配置。広場を囲むようにしてオフィス・商業店舗・ホテルに加え、ホール等を計画し、広場を介して緑・光・風などの自然環境と機能や活動が緩やかに重ね合わさり、多世代間の交流やにぎわいを生む環境を実現した。

撮影／川澄・小林研二写真事務所

高崎アリーナ

■建築主／高崎市
■構造／S一部RC・SRC造
■規模／地下1階 地上3階 26,312㎡
■施工／戸田建設
■竣工／2016年12月
■業務／設計・監理

鉄道に向けて開き、都市発展を可視化する「自然光アリーナ」

窪田　研
本社
プリンシパル
アーキテクト

高崎アリーナは、「人が集まり交流する都市・高崎」への転換に一躍を担う施設として期待されていた。それに応えるべく、新幹線などの主要路線に隣接する立地特性を生かし、シビックプロムナードと名付けた「交流・活動空間」を鉄道側に向けて大きく開放することで、人が流れ集まる様子が新たな都市軸を形成し、都市発展を視覚的にイメージできる構成とした。また、閉塞的になりやすい従来のアリーナの課題を克服するために、北側の安定採光を屋根面より導入できる「折り紙構造の屋根」を設計し、高崎アリーナの最大の目玉である「自然光アリーナ」を実現した。自然光に満ちあふれ、開放性を獲得したアリーナは、市民を自然とスポーツへいざない、交流・健康増進をより高める施設になっている。

撮影／新建築社

早稲田大学37号館 早稲田アリーナ

■建築主／早稲田大学
■構造／SRC・S・RC造
■規模／地下2階 地上4階 14,028㎡
■総合監理／早稲田大学
キャンパス企画部
■施工／清水建設
■竣工／2018年11月
■業務／基本計画・基本設計、
実施設計・監理（山下設計・清水建設JV）

SDGsを先導するランドスケープアーキテクチャー

水越 英一郎
本社
ジェネラル
アーキテクト

戸山キャンパスに建つ、最大収容人員約6,000人の多機能型スポーツアリーナを中心とする複合施設。建物の大半を地下に配置し、その地表に「戸山の丘」と名付けた地域にも開かれた新たなパブリックスペースを創出した。武蔵野の雑木林をモチーフとした「戸山の丘」は、大学と地域・社会をつなぐ、多世代交流の場となっているほか、地域の生態系強化やバイオフィリック効果によるキャンパス全体の知的創造性向上にも貢献している。エネルギー面では、地中熱を利用した空調・換気システムを構築することで、メインアリーナと付帯施設は「ゼロエネルギーアリーナ（試算値）」、建物全体でもZEB Ready（BEI=0.39）という二つの環境目標を達成している。

撮影／新建築社

市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリー「ナセBA」

■建築主／米沢市
■構造／RC一部S造
■規模／地上5階 6,193㎡
■施工／【建築】金子・網代・白井JV
【電気】東北電化・タカハシ電工JV
【空調・衛生】黒澤・情野JV
■竣工／2016年3月
■業務／設計・デザイン監修

変化を見つめる「定点」をつくる

安田 俊也
本社
フェロー
アーキテクト

図書館とギャラリー双方に共通する空間特性である「回遊性」や「緩やかな分節」を踏まえた空間システムを採用した。同心円状のグリットに配置された壁柱が大きなワンフロアを緩やかに分節し、中心に向け高くなる階段状断面が、天井が高く柔らかい光に満ちた本の広場や、天井が低く落ち着いた環境を持つカウンター席など、多様な場がつながり合う空間を生み出す。さらにその関係を外周部のピロティ空間「こまや」を介して外部まで延伸することで、建物とまちの関係性を強める。二つの機能をこのような空間に置き換えることで、変化に対応する強度を獲得するとともに、変わりゆく時代を見つめ続ける定点のような公共空間を生み出した。

Awards　山下賞・etc.

近年の受賞作品

山下賞

作品

2019年
- 芳賀赤十字病院
- 早稲田大学37号館 早稲田アリーナ

2020年
- 志太広域事務組合斎場会館「星山の苑」
- GREEN SPRINGS

2022年
- 立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ
- 新宮市文化複合施設「丹鶴ホール」

業績・技術

2019年
- 新建築山下設計特集号編集委員の活動
- YS.Wiki・知識の共有と蓄積を目的とした情報プラットフォームの構築

2022年
- 公共建築における地元産木材の発注から活用の実績と製材による木造架構技術（宇佐市安心院地域複合支所）
- 九州支社におけるZEB化への取り組み実績

作品・入選

2018年
- NHK仙台放送会館
- 共立女子学園2号館

2019年
- ならはスカイアリーナ

2020年
- 太平洋精工 新本社工場
- 伊予市文化交流センター「IYO夢みらい館」
- 東レ未来創造研究センター 融合研究

2021年
- グッドマンビジネスパーク イーストゲート
- 一関市東山小学校
- 伊豆の国市斎場「梛の杜」

2022年
- 平塚市立相模小学校
- 大津町庁舎
- 大垣市庁舎
- 宇佐市安心院地域複合支所

■NHK熊本放送会館	2017くまもと景観賞
■埼玉県石心会病院	第5回インテリアプランニングアワード2018入選／第52回SDA賞銅賞
■福岡市立こども病院	医療福祉建築賞2017
■一宮市尾張一宮駅前ビル	第16回公共建築賞優秀賞
■四国こどもとおとなの医療センター	第16回公共建築賞優秀賞
■軽井沢アイスパーク	第16回公共建築賞優秀賞
■アルモントホテル那覇県庁前	那覇市都市景観賞
■六本松複合施設	2018年度鉄道建築協会賞佳作
■高崎アリーナ	第59回BCS賞
■神奈川県 総合リハビリテーションセンター	第52回SDA賞入選
■富山西総合病院 ＋富山西リハビリテーション病院	第52回SDA賞銅賞
■岡山市水道局庁舎	平成30年度岡山市景観まちづくり賞建築物部門
■成田記念陽子線センター	第31回豊橋商工会議所都市デザイン文化賞
■霞が関ビルディング	JIA25年賞／第28回ベルカ（BELCA）賞ロングライフ部門
■NHK仙台放送会館	第20回日本免震構造協会作品賞
■長根屋内スケート場	2019年照明普及賞
■市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリー	東北建築賞作品賞／ 2019年日本建築仕上学会学会賞作品賞建築部門／第60回BCS賞
■長崎県警察本部庁舎	2019年度グッドデザイン賞 ※長崎県庁と一体で庁舎、防災緑地として受賞
■当麻町役場	2019年度グッドデザイン賞／令和元年度北海道赤レンガ建築賞／日本建築学会作品選集2021-2022
■特別養護老人ホーム摩周	北海道福祉のまちづくり賞公共的施設部門
■広域静苑組合越生斎場	第5回火葬大賞（作品選奨）
■立命館大学大阪いばらきキャンパス	第60回BCS賞／第17回公共建築賞優秀賞／おおさか環境にやさしい建築賞
■早稲田大学37号館 早稲田アリーナ	AACA賞優秀賞／第6回鈴木禎次賞優秀賞／日本建築家協会優秀建築選2019／第18回環境・設備デザイン賞第Ⅱ部門：建築・設備統合デザイン部門最優秀賞／第19回屋上・壁面緑化技術コンクール国土交通省大臣賞屋上緑化部門／第46回東京建築賞一般二類部門最優秀賞・東京都知事賞／日本建築学会作品選集2021-2022／第1回日本建築士会連合会建築作品賞奨励賞入賞／第63回BCS賞／第1回SDGs建築賞国土交通大臣賞／カーボンニュートラル賞
■高松市立みんなの病院	令和元年度高松市美しいまちづくり賞
■白鷗大学本キャンパス 新校舎	令和元年度第3回開運のまち「おやま」景観賞景観街並み部門市長特別賞
■芳賀赤十字病院	第4回真岡市建築賞一般部門
■氷見市庁舎	第17回公共建築賞優秀賞
■ならはスカイアリーナ	2019年照明普及賞
■志太広域事務組合斎場会館	第6回火葬大賞（作品選奨）／第37回（一社）静岡県建設業協会建設もの創り大賞（建築部門）最優秀賞／第53回中部建築賞入賞／2022年照明施設賞／北米照明学会賞Awards of Merit 2022
■馬事公苑（木づかいプロジェクト）	ウッドデザイン賞2020ハートフルデザイン部門
■伊予市文化交流センター	第4回JIA四国建築賞2020佳作／日本建築学会作品選集2021-2022
■浜松ホトニクス新貝第2工場	令和2年度静岡県くらし・環境部環境配慮建築物表彰環境配慮型建築物奨励賞
■市川市庁舎	千葉の木づかいコンペティション2020
■十和田市庁舎	第13回ふるさとあおもり景観賞公共建築物部門最優秀賞／2020年照明普及賞
■東北放送新社屋 Cサイトの照明	2020年照明学会東北支部照明技術賞
■むつマエダアリーナ	2020年照明学会東北支部照明技術賞
■宮崎県防災拠点庁舎	2020年照明普及賞九州支部長賞／令和2年度全建賞（建築部門）
■GREEN SPRINGS	北米照明学会賞Awards of Merit 2021／CM選奨2021／2021年度グッドデザイン賞／日本空間デザイン賞2021（DSA Design Space Awarad）大規模商業空間（又は、複合施設空間）GOLD PRIZE／日本建築家協会優秀建築選2022／ウッドデザイン賞2021ハートフルデザイン部門／第21回屋上・壁面緑化技術コンクール国土交通大臣表彰／第63回BCS賞
■太平洋精工 新本社工場	第34回日経ニューオフィス賞中部ニューオフィス推進賞
■早稲田大学本庄高等学院梓寮	第12回彩の国みどりの優秀プラン賞特別賞
■伊豆の国市斎場	第7回火葬大賞（作品選奨）
■三戸地区斎場	2022年照明施設賞
■みやぎ東日本大震災津波伝承館	2022年照明施設賞東北支部表彰照明技術賞
■宇佐市安心院地域複合支所	ウッドデザイン賞2022
■立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ	ウッドデザイン賞2022／2022年度第16回建築九州賞（作品賞）佳作
■柏原市庁舎	令和4年度おおさか環境にやさしい建築賞
■JR金沢駅西第三NKビル	第45回金沢都市美文化賞
■新宮市文化複合施設	日本建築家協会優秀建築選2022／第6回きのくに建築賞最優秀賞／2023年日本建築学会作品選奨／第56回SDA賞／2023年照明施設賞関西支部照明施設奨励賞

撮影／YASHIRO PHOTO OFFICE

立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ

■建築主／熊本県　■規模／地上1階 30㎡　■竣工／2021年12月
■構造／W造　■施工／ウッディーファーム　■業務／設計・監理

丸太の建築で人と自然をつなぐ

坂本 達典
本社
第3設計部
主任

曽根 拓也
本社
構造設計部
主管

くまもとアートポリスの一環で計画された木造の公衆トイレである。脱炭素社会の実現のため、木材活用の重要性が叫ばれ、木材の活用が急ピッチで進んでいる。それに伴い、多種多用な木質材料・構法も開発されているが、本計画では、立田山の豊かな自然に溶け込む素材として、「丸太」の架構を採用した。丸太は加工工程が少なく、材料ロスや製造のエネルギーを大幅に下げることができる。また、木をほぼそのまま使っているため、将来的に建物改修や追加加工、建物供用期間終了後の部材転用が行いやすい、持続可能性に富んだ材料である。さらに本計画では、通常は構造材として活用されないΦ100前後の小径の丸太を使用し、未利用材の活用を試みた。

撮影／川澄・小林研二写真事務所

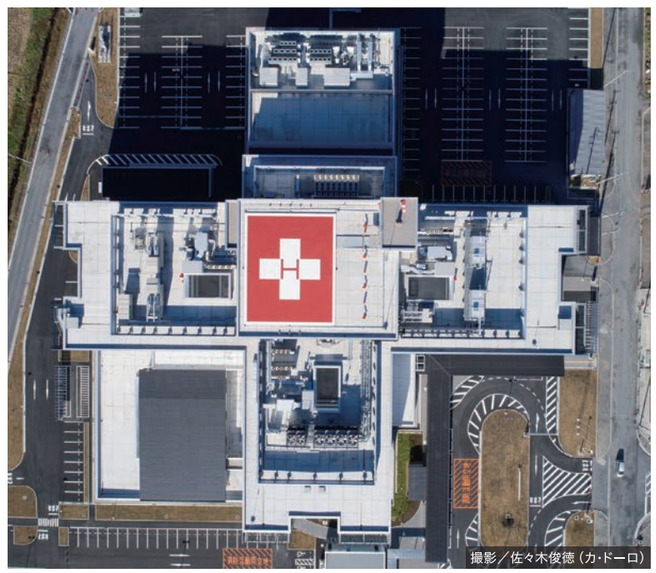
新宮市文化複合施設「丹鶴ホール」

■建築主／新宮市　■施工／【建築】村本建設・三和建設JV　■竣工／2021年6月
■構造／RC・SRC・S造　【電気】勝山電気工事・新宮電気工事・椿本商会JV　■業務／設計（山下設計・金嶋一級建築設計事務所JV）
■規模／地上5階 6,428㎡　【機械】協和水道設備商会・中村冷機JV

まちを俯瞰する視点場をつくる

笹岡　歩
本社
第1設計部
主管

「地域の歴史を保存すること」、それは図書館の根源的な役割の一つである。最上層の図書館は、360度の眺望が得られる円環二重構造となっており、外周部の回遊空間は、新宮の個性的な文化を生み出してきた独特な地域景観を俯瞰することができる。さらに、外周部と中央を区切る耐震壁と一体となったテーマ書架が、周囲に望む美しい郷土の風景に応答した展示型ライブラリーを形成し、昔からある風景と今の自分たちの生活を重ね合わせることができる展望台のような建築となっている。日常生活の中でこうした視点場を持つことが、地域の歴史・文化と向き合うきっかけを生み出し、何かが新しく始まり、つながり合うのではないかと考えた。


撮影／佐々木俊徳（カ・ドーロ）

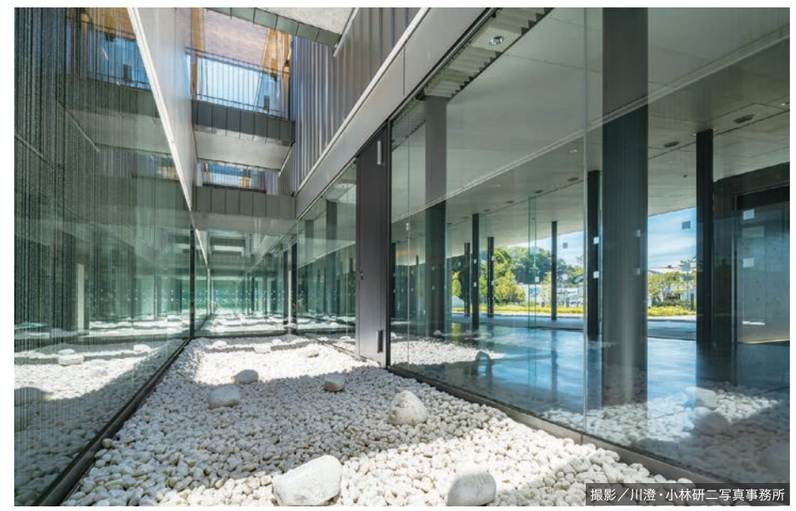
■建築主／日本赤十字社
■構造／S造
■規模／地上6階 28,977㎡
■施工／【建築】大成・中村土建・増山工業JV【電気】関電工・トクシンJV【空調・衛生】新菱・岩原JV
■竣工／2018年11月
■業務／設計・監理

芳賀赤十字病院

いつの時代にも地域の医療に寄り添うことができ、患者の快適性・安心を追求したモデル病院

菊池 悠二
本社
第1設計部
主任

高齢化・人口減少・医療資源不足等に直面する本地域において、亜急性期-急性期医療の幅広い医療を効率的に提供する仕組みが求められた。計画の特徴は「限られたスタッフで医療機能を最大限引き出す低層十字型平面」である。縦動線を中心に各部門に最短にアクセスできる平面により院内全体の動線を短縮し、病棟は3看護＋診療機能とすることで入院治療の向上と機能変化にも追従可能な柔軟性のある骨格とした。また、高齢患者の増加に配慮した外来機能の1フロアへの集約や、患者に近く、すぐ駆けつけることができる「ホール型ステーション」等により院内全体で見守られている安心感があり、患者に寄り添うことができる空間づくりを徹底した。


撮影／川澄・小林研二写真事務所

志太広域事務組合斎場会館「星山の苑」

■建築主／志太広域事務組合　■照明監修／LIGHTDESIGN　■炉設計／宮本工業所
■構造／RC一部S造　■外構監修／STGK　■竣工／2020年3月
■規模／地上2階 4,722㎡　■業務／設計・監理
■施工／【建築】橋本組・近藤建設工業JV【電気】朋電舎・富士電工JV【空調】菱和設備・大洋アレスコJV【衛生】エクノスワタナベ・青島ポンプ工業JV【火葬炉】宮本工業所

まちとつながるお別れの場 ―光の仕切り―

中野 裕正
本社
企画開発部
シニアアーキテクト

葬儀は日常生活において、どちらかといえば見かけたくない行為であり、会葬の当事者としても見られたくない意識が働く。しかし、大切な故人との最後のひと時は閉塞的でなく、開放的な環境で心ゆくまでお見送りしてあげたい、このように、相反する心情が伴うことも多い。“見通されたくない”けれども“開放的でありたい”この微妙なつながりを「光の仕切り」で創り上げた。葬送場面を切り替える建物長手に貫通した帯状光庭にそそがれた太陽光による内部と外部の照度差等により、近隣やほかの会葬者からは葬送プライバシーを見通しにくくした上で、炉前からは風景が見通せる仕組みである。国内初のガラス張りの告別・収骨室となり、「まちとつながるお別れの場」を実現している。

撮影／エスエス東京支店

モンゴル国モンゴル日本病院

■建築主／モンゴル国教育科学省
■構造／RC造
■規模／地下1階 地上3階 16,010㎡
■施工／関東建設工業
■竣工／2019年6月
■業務／設計・監理（山下設計・梓設計JV）

日本の医科大学の病院運営を導入した高度医療を提供する環境の実現

西川 浩平
本社
国際設計監理部
グループ長

本施設はモンゴル初の大学附属病院であり、卒後医師の実践的な臨床実習の場の提供と、人口が急増するウランバートル市東部の2次医療施設の機能を担う。氷点下40度以下となる厳しい気候環境を考慮し、凍結深度まで達する地下階を計画し、これに病院に必要なサービス部門を集約し、地上部に出るボリュームを抑えつつ、熱橋が生じにくいミニマルなデザイン構成とした。室内への熱負荷を抑えるため、開口部の場所を絞りつつも、内部の吹き抜けに面して限定的に大きな開口部を設けることで、施設内に自然光が行き渡る空間構成とした。

ヨルダン国ペトラ博物館

■建築主／ペトラ観光開発局
■構造／RC造
■規模／地上1階 1,800㎡
■施工／カフタンハダディンアンドパートナーズ
■竣工／2018年9月
■業務／設計・監理

壮大な自然・歴史と対話する博物館

亀田 訓和
本社
グローバル
ソリューション部
主管

ペトラ遺跡は、長さ約1.5㎞、高さ100mにも達する峡谷を越えるとたどり着く古代都市遺跡で、連日、世界中の観光客が訪れている。本施設は、観光振興および世界遺産の啓蒙と遺跡保全に資する日本政府の一般文化無償資金協力として計画された。景観影響を最小化するために建物ボリュームを抑える必要があり、その制約の中で印象的な外観の実現と内部空間の充実化を図っている。外装の色・素材は、周辺の岩山や街並みと同じ石灰岩に割肌やテクスチャを彫り込むなど風合いを持たせ、以前から存在していたかのような時間の経過を表現している。

バングラデシュ国行政運営研究・人材育成施設

■建築主／バングラデシュ国政府
■構造／RC一部SRC造
■規模／地上8階 7,480㎡
■施工／鉄建建設
■竣工／2025年3月（予定）
■業務／設計・監理

日本バングラデシュ友好50周年のシンボルとなる政策研究教育拠点

小林 由佳
本社
国際設計監理部
主管

国際機関が集積するダッカ中心地の新しいランドマークとして、国の将来を担う政策リーダーの養成基盤施設を計画する。リモート教育や海外の研究・教育機関と連携を可能とするICT技術の導入や、国際水準の研究・教育環境の提供に加え、幹部人材間の人的交流を触発する空間を随所に配置した。また、大気汚染が深刻なエリアで建物内部の空気清浄度を高めた教育・研究・パブリックスペースを計画しており感染症対策としても効果を期待できる。

写真提供／佐藤工業

ミャンマー国マグウェイ地域総合病院

■建築主／ミャンマー国保健省
■構造／RC造
■規模／地上3階 7,300㎡
■施工／佐藤工業
■竣工／2020年11月
■業務／設計・監理

医療機能の効率化と生活延長線上にある療養環境の実現

横山 元晴
本社
国際設計監理部
主管

本計画地域の中核病院の医療機能向上と拡充を目的とし、日本の医療施設の優れたゾーニングを導入した増築計画である。医療従事者不足が著しい地域中核病院へのソリューションとして、一般病室間の間仕切りを視線高さまでとし、各病室が医療従事者から見渡しやすい空間構成とした。また、緑豊かな敷地内環境を生かし、病室の療養環境に木々の風景を取り込み、エントランスホールは屋外に大きく開放して、自然通風が確保された家族の待合スペースを設けている。自然や家族と共にある、地域の人々の日常生活の延長線としての療養環境を目指した。

写真提供／清水建設

在バングラデシュ国日本国大使館事務所

■建築主／在バングラデシュ日本国大使館
■実施設計・施工／清水建設
■竣工／2022年11月
■業務／基本設計

街路の自然環境に調和し、大使館としての存在感を備えた施設計画

西川 浩平
本社
国際設計監理部
グループ長

本計画は、既存大使館の執務エリアの拡大、多目的ホール、日本の文化を現地に発信する広報文化スペースの整備を目的とした増築計画である。計画地のバリダラ地区は都市化が進むダッカ市で珍しく街路樹が続く環境の良い地区である。この環境を生かすために3種類の奥行寸法の異なる縦型ルーバーを組み合わせて、日本的な「窓格子」の要素を取り入れた外観とした。室内への日射抑制による環境負荷低減とプライバシー確保を図るとともに、街路樹を意識した樹木の連続を彷彿とさせる、周辺環境と調和する施設を整備した。

写真提供／山万

ウィシュトンホテル・ヤンゴン

■建築主／山万
■構造／RC造
■規模／地下1階
地上9階 約6,000㎡
■施工／【建築】Zaw Htet Paing
【電気・機械】Sanyo Engineering & Construction
【内装】T.S.I Myanmar
■竣工／2019年10月
■業務／基本設計・PM支援

ミャンマーで日本式おもてなしサービスの実現

津本 正芳
本社
国際事業部門
部門長

本邦企業進出のための良好な住環境が不足するヤンゴン市内での長期滞在型ホテルの計画である。市場調査、敷地選定から設計・工事完了まで参画し、「日本式おもてなしサービスの提供」の実現を目指した。中長期滞在を快適にする大型ユニットバス・洗濯乾燥機・キッチンなどを配備した、SOHO利用も可能な客室計画、石・木材を配したインテリア、高品質な水・電気の安定供給など、現地の環境で利用者の満足度を高める計画とした。

Medical / Research

撮影／FOTOTECA

千葉大学　医学系総合研究棟、災害治療学研究所棟、藤井節郎記念治療学研究センター棟

■建築主／千葉大学

【医学系総合研究棟】
■構造／S造
■規模／地上11階 40,827㎡
■施工／清水建設
■竣工／2021年3月
■業務／設計・監理（山下設計・清水建設JV

【災害治療学研究棟】
■構造／S造
■規模／地上7階 4,250㎡
■施工／新日本建設
■竣工／2023年3月
■業務／実施設計（建築）

【藤井節郎記念治療学研究センター棟】
■構造／RC造
■規模／地下1階 地上7階 4,600㎡
■竣工／未定
■業務／実施設計（建築）

密接した連携を持つ3棟の最先端治療学研究所

宮下 克茂
本社
第1設計部
主任

千葉大学亥鼻キャンパス内の中心付近に順次計画された3棟の研究棟は、医学部附属病院と隣接して配置した、治療学研究発展のための施設である。医学系総合研究棟は医学の教育活動および研究活動を提供できる施設、災害治療学研究所棟と藤井節郎記念治療学研究センター棟は、最先端の集約型治療学研究拠点施設として計画した。隣接して配置する3棟は、渡り廊下で接続することで建物同士の機能連携も可能としつつ、研究に合わせて将来対応が可能なフレキシビリティーのある計画とした。多様な治療学研究機能と密接した連携を持つ三つの建物は、各研究領域を超えた交流が可能な建物とし、最先端の研究を支える施設にふさわしい場となっている。

写真提供／竹中工務店

大阪はびきの医療センター

■建築主／大阪府立病院機構
■構造／S一部RC造（基礎免震）
■規模／地上6階 34,199㎡
■実施設計・施工／竹中工務店
■竣工／2022年12月
■業務／基本設計・監理

ここならではの環境を生かしながら感染症への対応力を強化

加藤 拓郎
本社
第1設計部
シニアアーキテクト

405床を有する地域中核病院の現地建て替え計画。新病院棟は緑と水の潤いある環境を間近に感じることのできる6階建ての低層建物とした。1階には池に面する結核病棟を配置し、長期入院の患者がくつろげる環境づくりを行った。メインフロアとなる2階は外来機能を集約した「ワンフロア外来」とすることで、外来患者の上下移動をなくし、利便性の向上を図った。4階と5階は放射状に広がる4看護単位の病棟形状とし、その中央にスタッフコモンズを配置することで、スタッフ同士が連携しやすい計画とした。結核病棟は出入口や通路、エレベーターを独立化するなど、感染エリアと一般エリアを明確に区分し、感染症への対応力を強化した。

撮影／エスエス東北支店

東京応化工業郡山工場新検査棟

■建築主／東京応化工業
■構造／S一部RC造
■規模／地上3階 8,815㎡
■設計・施工／フジタ
■竣工／2022年6月
■業務／CM

一貫したマネジメントによる最先端半導体用製品検査施設プロジェクト

清水 英俊
本社
プロジェクトマネージメント部
チーフプランナー

東京応化工業郡山工場検査棟プロジェクトは、東京応化工業の主力製品である半導体用フォトレジストの検査を行う重要な施設の建設計画CM業務である。最先端技術に対応するため、また、高まる半導体需要に対しての生産体制増強を実現すべく、既存検査施設を集約・再構築するプロジェクトとなる。高度な振動対策が求められる高性能クリーンルームを有する施設というハイグレードな要求に対し、組織設計事務所におけるCMrの強みを生かし、設計施工一括方式を採用した建設計画の発注支援、設計段階および施工段階のモニタリングや技術支援等、一貫したマネジメントにより、本施設の完成を実現した。

撮影／三輪晃久写真研究所

日本たばこ産業 医薬総合研究所 横浜リサーチセンター

■建築主／日本たばこ産業
■構造／S造（免震）
■規模／地下1階 地上8階 19,539㎡
■実施設計・施工／大成建設
■竣工／2020年6月
■業務／基本設計・実施設計監修・監理

二つの研究所の融合によるイノベーションの誘発

宮嶋　聡
本社
プロジェクトマネージメント部
部長

医薬総合研究所の建設プロジェクト。新たな横浜リサーチセンターは、別々の敷地に建っていた医薬開発の初期段階を担う医薬探索研究所と、最終段階を受け持つ安全性研究所が同じ拠点に集う計画。二つの研究所が統合することでイノベーションの誘発、知的生産性の向上と研究開発の迅速化を促進することを目的としている。海沿いに立地する敷地特性を生かし、眺望がよい最上階に二つの研究居室を集約した大空間のワンルームを設けている。2～4階の実験フロアは、安定的な実験環境を確保するために外周部に廊下を回し、さらに開口部を制限して外部負荷を抑えている。また、1SS階の設置やオープンラボ方式など機能性・柔軟性が高い計画としている。

写真提供／大林組

帝京大学先端総合研究機構棟

■建築主／帝京大学
■構造／RC一部S造
■規模／地下1階 地上5階 9,263㎡
■実施設計／大林組
■施工／【建築】大林組【電気】東光電気工事【空調】東洋熱工業【衛生】ヤマト
■竣工／2021年3月
■業務／基本設計・実施設計監修・監理

多種多様な分野が共存する先端的オープンラボ

戸邉 亮司
本社
第1設計部
主管

本機構は、学部を超えた連携教育実践の場、また産業界との共同研究やオープンイノベーションの場として構想された。オープンラボ仕様を基本とし、ラウンジなどコミュニケーションの場を複数設けて研究者同士の交流を誘発する仕組みをつくった。ラボ最小ユニットを1スパンとし、ユニットごとにユーティリティー供給を完結させた、汎用性・更新性・安全性の高い施設とした。ラボ外周に設けた設備バルコニーは視線制御のアルミパネル・ルーバーで構成し、エントランスに面した西面は西日制御と対面住宅への視線制御による雁行壁で構成した。縦ラインのメタリックなファサード構成で先進性と品格ある外観デザインを創出した。

撮影／写真工房 匠

くまもと県北病院

■建築主／くまもと県北病院
■構造／S造（基礎免震）
■規模／地上6階 35,547㎡（付属棟含む）
■施工／熊谷組
■竣工／2020年10月
■業務／設計・監理

公立病院と医師会病院の統合移転新築

酒井 理恵
本社
第3設計部

国内でも数少ない公立病院と医師会立病院の統合事例である。基本設計からの設計・施工一括発注というスキームのメリットを生かし、コスト抑制を徹底しながら、16カ月という超短工期を実現した。敷地周囲の田畑や住宅への影響を最小限とするため1フロアに4看護単位を配置するなど建物の低層化を図った。建物内部は「こもれびひろば」と名付けた吹き抜け空間を中心とした骨格動線により分かりやすい空間構成とし、さらに1階は全ての外来機能を集約した「ワンフロア外来」とすることで来院者の安心・安全に配慮した。医療の迅速化を図るため救急専用エレベータを設置し、1階の救急、3階の手術・HCU・救急病棟、屋上のヘリポートを直結している。

撮影／ナカサアンドパートナーズ

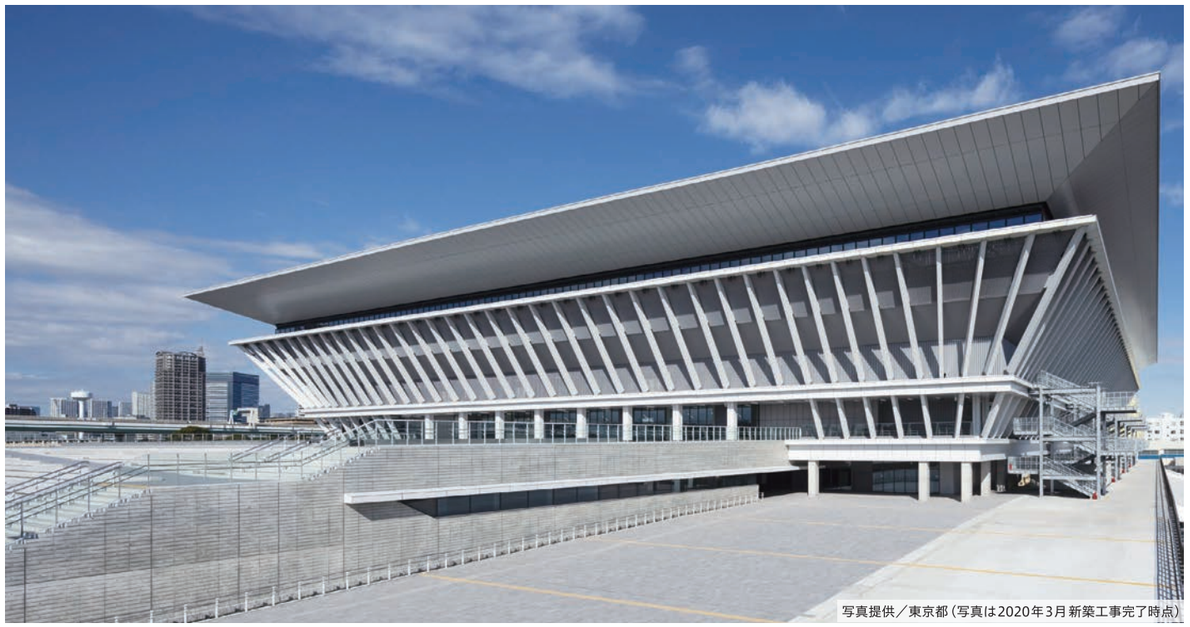
JRA馬事公苑

■建築主／【恒設建物】日本中央競馬会
【仮設建物】東京2020大会組織委員会
■構造／S一部RC造
■規模／地上3階
【恒設建物】33,751㎡
【仮設建物】24,362㎡
■施工／大成建設
■竣工／【1期】2020年3月
【大会仮設工事】2021年5月
【2期】2023年10月（予定）
■業務／設計・監理

「馬・人・緑」に寄り添う群造風景

高木 賢治
本社
ソリューション本部
特任部長

56年ぶりのオリンピックを機に日本馬術競技の聖地および開かれた公園的施設として再整備する計画。恒設施設をJRAが、大会用仮設は組織委員会が整備している。共有されたコンセプトは「大会後も国際大会誘致可能な施設」、「馬と触れ合える緑豊かな公苑」と「日本らしさ」である。建物を集約配置し利便性を高めつつ馬術競技と公園エリアを広く確保、そこに馬に関わる仕掛けや自然の新たな魅力を仕込んだ。共通フォルムの大屋根や大庇が連なる群造風景を創り出し、馬と緑を引立てる風合いある色調の材料選定など統一感あるデザインを展開した。「馬・緑・人」を主役として建築が自然の背景としてたたずむ都会の中での新しい風景を創り上げた試みである。


写真提供／東京都（写真は2020年3月新築工事完了時点）

東京アクアティクスセンター

■建築主／東京都
■構造／S一部SRC・RC造（屋根免震）
■規模／地下1階 地上4階
【新築時】64,404㎡
【改修後】50,692㎡
■設計・監理／東京都財務局建築保全部オリンピック・パラリンピック施設整備課
■実施設計／大林・東光・エルゴ・東熱JV、昭和設計
■施工／【新築時】大林・東光・エルゴ・東熱JV【改修時】清水建設
■竣工／【新築時】2020年2月【改修時】2023年2月
■業務／基本設計・DB発注資料作成等業務・DBアドバイザリー・監理

世界最高水準の水泳場

坂本 達典
本社
第3設計部
主任

国際大会や国内大会の実施や次世代アスリートの強化・育成の場を提供する日本水泳の中心となる世界最高水準の水泳場であるとともに、誰もがスポーツや健康増進に取り組むことができる場の提供や周辺施設と連携したにぎわいの創出などを目的として計画された、国内最大級の約5,000席の観客席を有するメインプールのほか、ダイビングプール、サブプールなどを備えた施設である。東京2020大会の水泳会場として使用され、大会後は都民の利用や世界的な大会が開催される国際水泳場として活用。観客席からの視界を遮らぬよう約130×160m・約7,000tの大屋根を4本の柱で支えた大規模無柱空間を実現し、地組みした大屋根を3段階で持ち上げるリフトアップ工法を採用した。

撮影／稲住泰広（稲住写真工房）

ヨコハマエアキャビン

■建築主／泉陽興業
■構造／S造
■規模／【駅舎間距離】630m
【ゴンドラ数】36基【桜木町駅舎】585㎡
【運河パーク駅舎】1,204㎡
■施工／【駅舎】ピーエス三菱
【索道】日本ケーブル
【海上支柱】東亜建設工業
■竣工／2021年2月
■業務／設計・監理

日本初の都市型ロープウエーによる新たな景観の創出

服部 久雄
関西支社
設計監理部
グループ長

ロープウエーをつなぐ二つの駅舎は、明治時代に開通した臨港線の跡地である歩行者通路「汽車道」の始点と終点にあり、休日には多くの人が往来する観光地域になっている。日本初となる都市型のロープウエー施設にふさわしいシンボル性、デザイン性に配慮し、ゴンドラが空中を行きかう浮遊感と調和させるように、駅舎の2階発着場部分を空中に浮かせた構成としたほか、ガラスを多用したデザインとすることで、観光都市の新たな景観を創出している。設備面でも公共交通機関に準じた安全性やバリアフリー対応に加え、自然換気装置を組み込んだサッシ、人感センサーによる照明制御や高効率の空調機器を導入するなど環境に配慮した計画としている。

撮影／GRAYTONE PHOTOGRAPHS

よつ葉アリーナ十勝

■建築主／とかちウェルネスファーム
■構造／RC一部S造
■規模／地上3階 14,848㎡
■施工／【建築】宮坂・萩原・川田・市川JV
【電気】川岸電設
【空調・衛生】太平・三洋JV
■竣工／2021年8月
■業務／設計・監理
（山下設計・岡田設計・創造設計舎JV）

「地域のシンボル」となる複合アリーナ

柴田 俊介
本社
企画開発部
主管

よつ葉アリーナ十勝は多種多様な競技に対応できる大・小アリーナを完備し、全国規模の大会やプロスポーツ、コンサート、講演会など、小規模から大規模イベントまで多様に使える次世代運営を配慮した官民連携による地域密着型多目的アリーナである。敷地に隣接している十勝川・十勝大橋と共に「地域のシンボル」として計画した。PFI 方式を採用することで、民間企業がそのノウハウを最大限生かし、最新のマシンを導入したプログラムとそれを実践できるトレーニング室を配備していることや、プロ興行を意識したアリーナ整備を行い従来の公共体育館の域を超える性能と使い勝手を実現している。

©MAO RINK PROJECT準備委員会

MAOリンク

■建築主／立飛ホールディングス
■構造／S造
■規模／地上2階 8,540㎡
■施工／北野建設
■竣工／2024年9月（予定）
■業務／PM・設計・監理

さまざまなアクティビティーに対応する多機能リンク

菊池 孝平
北海道支社
設計監理部
主任

本施設は、アイススケーターの育成を目的に、アイスリンク機能に加え、トレーニングルームや多目的スタジオ等のさまざまなスポーツ施設機能を備えている。また周辺施設利用者や地域の人々が、スケート以外の目的でも、気軽に立ち寄れ、利用できる屋外広場や屋上デッキ、そしてレストランも併設している。メインリンクとサブリンクとは、それぞれに空間を独立させることで、従来施設では利用時間で区切っていた一般開放とスクール練習といった異なるプログラムの組み合わせの同時利用も可能にしている。またメインリンクはプロスケーターのステージとしても機能し、仮設席設置時には固定席1,000席と合わせ最大収容2,000人のエンターテインメント空間となる。

Urban Development

麻布台ヒルズ ガーデンプラザ
（虎ノ門・麻布台地区第一種市街地再開発事業）

■建築主／
虎ノ門・麻布台地区
市街地再開発組合
■構造／S一部RC造
■規模／
【C-1街区】地下2階 地上3階 10,590㎡
【C-2街区】地下3階 地上8階 31,540㎡
【C-3街区】地下1階 地上3階 1,710㎡
■デザイナー／Heatherwick Studio
■施工／【建築】大林組
■竣工／【C街区】2023年6月
■業務／設計・監理
（森ビル、山下設計〈大林組
C-2・C-3街区構造設計協力〉）

連続性と多様性を生み出す格子状のフレーム

島口 拓也
本社
虎麻プロジェクト室
主任

麻布台ヒルズは、高さ約330mの森JPタワーを含む3棟の超高層棟と、桜田通り側の玄関口を担う低層部ガーデンプラザからなる大規模再開発である。ユニークなデザインが際立つガーデンプラザには、店舗・美術館・事務所・共同住宅といった機能が備わる。湾曲した格子状のフレームは、構造性能を担保しつつ、形態の連続性と空間の多様性を生み出している。地区全体を横断して隆起するフレームにより、大小スケールの異なる建築群に一体感が生まれ、そのフレームが上下へと起伏を繰り返すことで、ランドスケープと建物とが絶えず入れ替わるような複雑な空間を形成している。この緑と多様性に富んだ空間が敷地の垣根を超えて連続し、都市の豊かな街並みを作っていく。

大宮門街（オオミヤカドマチ）
（大宮駅東口大門町2丁目中地区第一種市街地再開発事業）

■建築主／大宮駅東口大門町2丁目中地区市街地再開発組合
■構造／S・SRC造（柱頭免震）
■規模／地下3階 地上18階 82,247㎡
■施工／鹿島・松永建設JV
■竣工／2021年10月
■業務／企画・設計・監理

「辻」が街とつながる再開発

三沢 守
本社
第2設計部
シニアアーキテクト

大宮駅東口は旧中山道と交差する路地空間のまちであり、武蔵一之宮氷川神社の門前町として、また、関東の玄関口として栄えてきた。西口に比べて再開発が進んでいない東口エリアの最初の再開発事業である。オフィスや商業施設、銀行、市民ホール等が広場と辻で縦横につながる構成としている。まちとつながる1階の辻通りが路地空間を連続させ、半屋外の吹き抜け広場に沿った縦動線で上層階へ辻を展開している。東口一帯のグランドセントラルステーション化構想の一翼として「辻」を取り込んだ計画で周辺再開発事業をリードする役目を担っている。大宮・大門・門（かど）・街（まち）を組み合わせた施設名にその思いが込められている。

広島城三の丸整備等事業（Park-PFI）

■建築主／
広島城アソシエイツ
（中国放送等）
■構造／W造
■規模／
地上1階 約640㎡
（プロポーザル時）
■施工／フジタ
■竣工／【1期】2025年3月（予定）
【2期】2026年9月（予定）
■業務／設計・監理
（山下設計、フジタ）

温故知新 ～魅力ある都市空間は歴史を生かしてこそ～

長岡 祥太
関西支社
設計監理部
主任

広島城三の丸エリアは、縦軸としてP-PFI事業のにぎわい施設の間を通り、広島城天守閣へと南北に抜ける「広島城天守への軸」と、横軸としてサッカースタジアム整備地やひろしま美術館等のスポーツ・文化が集まる城南通りの「にぎわいの軸」が交差する位置にある。このことから、人の流れなどを考慮し、広島城を最大限リスペクトした新しい「おもてなし拠点」となるように計画する。広島城三の丸歴史館1階南東部は外部に開かれた来館者ゾーンとなるため、そこに面する外部空間は、第1期エリアの店舗と一体となってにぎわいを創出する。第2期エリアは多目的広場や天守閣を望む店舗で構成し、広島城の景観を生かした「ここにしかない」空間づくりを行う。

道玄坂二丁目南地区第一種市街地再開発事業

■施行者／道玄坂二丁目
南地区市街地再開発組合
■特定建築者／三菱地所
■構造／S・SRC造
■規模／地下3階 地上30階 約87,100㎡
■デザイン総合監修／北川原温建築都市研究所
■竣工／2027年2月（予定）
■業務／都市計画コンサルタント・基本設計・実施設計
（三菱地所設計・山下設計JV）

まちづくりへの地域の思いをかたちにする再開発プロジェクト

安海 光
本社
都市計画部

計画地の位置する道玄坂エリアでは、地域の回遊性を高める歩行者ネットワークの強化が求められていた。そこで、隣接する渋谷マークシティと接続し、敷地内にバラエティー豊かな歩行者動線を設けることで、道玄坂一・二丁目をつなぐ南北のネットワークを形成する計画としている。その上で、ネットワークの結節点には交流・憩い空間としての広場や緑道を設け、傾斜地を生かした立体的なオープンスペースや路地空間を形成することで、渋谷らしい界隈性を創出する。また、個性豊かな商業が集積する道玄坂に面して店舗等を配置し、にぎわいの連続性強化に寄与する。こうした取り組みを通じ、まちづくりへの地域の思いをかたちにする再開発を目指す。

苗穂ヒラクス（北3東11周辺地区第一種市街地再開発事業）

■建築主／北3東11周辺地区市街地再開発組合
■構造／RC・S造
■規模／地上27階 57,926㎡
■施工／岩田地崎建設・丸彦渡辺建設・田中組・札建工業JV
■竣工／2022年5月
■業務／設計・監理

苗穂の新たな風景をつくり、北の街に適した再開発事業

有馬 大蔵
本社
第1設計部
チーフアーキテクト

計画地のJR苗穂駅周辺は線路を挟んだ南北で行き来がしにくいという、街づくりの課題があった。本事業は、苗穂駅南側の再開発事業であるが、同時期にJR苗穂駅の移転整備、札幌市による駅前広場の整備、駅北側の事業が行われた。さまざまな人たちの手で、南北に分かれた街をつなぎ、苗穂の街の新たな風景づくりを行った。本計画は、南側の壁面を通りから大きく後退することで、商業施設と屋外が一体的に利用可能な広場を設けている。また、住宅、商業施設は空中歩廊で接続しているため、天候に左右されずにJR苗穂駅、北側のエリアに自由に行き来ができる北の街に適した計画となっている。

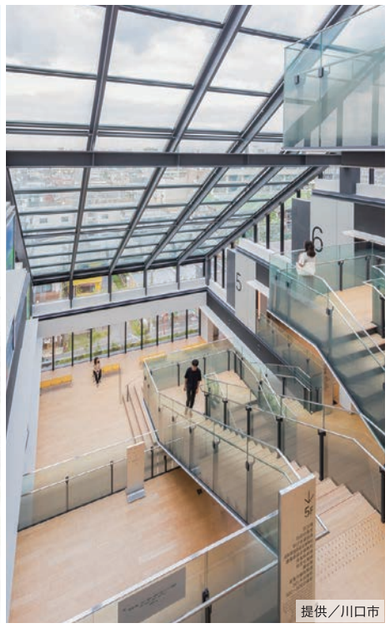
名取駅前地区第一種市街地再開発事業

■建築主／名取駅前地区市街地再開発組合
■構造／【北棟・駐車場棟】S造【南棟】RC一部S造
■規模／【北棟・駐車場棟】地上5階 8,444㎡
【南棟】地上11階 6,180㎡
■施工／鹿島・橋本店JV
■竣工／2018年10月
■業務／事業推進、設計・監理
（山下設計・関・空間設計JV）

東日本大震災からの復興のシンボルで駅前のにぎわいを創出

大平 順子
東北支社
設計監理部
主任

東日本大震災で甚大な被害を受けた名取市中心市街地の復興を先導する事業として、名取駅前地区のにぎわい拠点となる公共公益・商業・業務機能と、被災市民を呼び戻すまちなか居住機能を配置し、ペデストリアンデッキで駅と結ぶことで、市街地の活性化と歩行者ネットワークの形成でにぎわいを創出する計画とした。施設は南棟、北棟、駐車場棟の3棟で構成され、北棟は被災した公民館や図書館の再建と併せ防災拠点施設として広域避難・災害支援機能を有した災害に強い復興のシンボルとなる計画とした。南棟は、災害に強いまちづくりを目指す観点から免震構造を採用し、2階レベルで図書館や名取駅とペデストリアンデッキでつなぐことで利便性の高いまちなか居住施設とした。



提供／川口市

川口市新庁舎

■建築主／川口市
■構造／S一部RC・SRC造（柱頭免震）
■規模／【1期棟】地下1階 地上9階 20,035㎡【2期棟】地上6階 17,664㎡
■施工／【1期棟】埼玉建興【2期棟】埼玉建興・埼和JV
■竣工／【1期棟】2020年5月【2期棟】2025年6月（予定）
■業務／設計・監理

水害に強いまちづくりを先導する庁舎

加藤　光
本社
企画開発部
主管

川口市新庁舎は、行政・議会機能を中心とした1期棟と、窓口など市民サービス機能を中心とした2期棟で構成される。2棟は、交差点上空の連絡通路で相互連携を図りやすい計画とし、その延長線上には、市民活動の場となる吹き抜け空間「シビック・キューポラ」を両庁舎に設けることで、市民や職員の協働・交流を促進している。また、水害リスクの高い地域性を踏まえ、浸水深4m（荒川洪水）に対応するため2階に玄関フロアを設け、それ以上の階に主要機能を集約した。さらに、災害時の供給安定性に優れる都市ガス（中圧ガス）を使用したコージェネレーションシステムを採用し、自家発電で電力を確保するとともに、連絡通路を介して非常電源を融通させることで、2棟における長期の自立運用を実現している。

撮影／エスエス東京支店

（仮称）市民センター（福島市）

■建築主／福島市
■構造／RC造
■規模／地上5階 9,250㎡
■施工／佐藤・安藤・大丸JV
■竣工／2024年9月（予定）
■業務／設計・監理

東日本大震災を乗り越えて福島市の中心市街地を活性化する複合施設

谷口 太郎
東北支社
設計監理部
グループ長

1952年竣工の旧庁舎の建て替え計画。2008年に東棟（行政棟）と西棟（議会棟）の2棟構成で設計を完了したが、東棟が竣工した直後に東日本大震災が発生し、市内の復興事業を優先させるため西棟の建設は中断となった。その後2018年より西棟の在り方が再度議論され、中心市街地の活性化や公共施設再編の観点から、「議会機能」に加え、「市民交流機能」「防災機能」「行政機能」を複合した「（仮称）市民センター」として整備することになった。主に「市民が身近で愛着を感じる施設」「安全・安心のよりどころとなる防災機能の整備」「さまざまな世代や障害、性の多様性にも配慮した施設」といったコンセプトを掲げて建設を進めている。

撮影／スタジオナップス

東北放送新社屋Cサイト

■建築主／東北放送
■構造／S一部RC造
■規模／地下1階 地上5階 9,766㎡
■施工／大林組
■竣工／2020年2月
■業務／設計・監理

地域に開かれた杜の中の放送局

下村 龍治
東北支社
設計監理部
部長

本事業は、東北放送新社屋の敷地内建て替え計画である。地域の放送局として身近で開かれた社屋とし、計画敷地が八木山に位置することから緑豊かな周辺環境と調和した社屋とすることが求められた。緑豊かな周辺環境との調和を図るため、西側市道の松並木に対して圧迫感を軽減する低層棟、敷地東側の既存緑地を極力残すため平面形状を東西方向にコンパクトにした高層棟という二つのボリュームに建物を分けた。高層棟には執務室や各種スタジオを配置、低層棟は内部の活動が見えるガラスカーテンウォールのデザインとすることや、オープンなテレビ・ラジオスタジオである「桜スタジオ」を配置することで、地域に開かれた杜の中の放送局を実現した。

撮影／エスエス大阪支店

柏原市庁舎

■建築主／柏原市
■構造／S造
■規模／地上5階 10,964㎡
■施工／【建築】中川企画建設
【電気・空調・衛生】関電工
■竣工／2022年3月
■業務／設計・監理
（中川企画建設・関電工・山下設計JV）

防災と交流の拠点となる丘のある庁舎

小原 信哉
関西支社
設計監理部
チーフアーキテクト

約300年前に大和川の大規模な付け替え工事が行われた治水の歴史を持つ計画地において、これからも地域の安全を守る防災拠点、そして大和川と共にある市民の交流拠点を持つ庁舎を目指した。敷地は、東側の鉄道と西側の大和川に挟まれた南北に長い形状である。縦ルーバーによる遮蔽と、水平窓による開放性を組み合わせて「閉じながら開く」ことで、大和川や古市古墳群の眺望を生かすとともに、西日による熱負荷は抑えた。また、川の氾濫時に一時退避できる安全の丘として、地上から大階段でつながる2階レベルの屋外空間「かしわらテラス」をつくり、大和川の自然を身近に感じる交流空間として、新たな市民の憩いの場を生み出している。

撮影／小川重雄写真事務所

横浜市役所

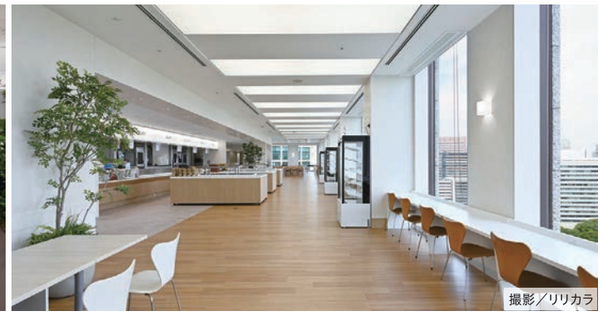
■建築主／横浜市
■構造／S・CFT造（免震）
■規模／地下2階 地上32階 142,582㎡
■設計／竹中工務店、槇総合計画事務所
■施工／竹中・西松JV
■竣工／2020年5月
■業務／CM（山下PMC・山下設計JV）

公共施設における基本設計からのDB発注方式へのチャレンジ

和田 旨弘
本社
第2設計部
部長

関内地区、みなとみらい地区の街の結節点に位置する計画地に、“OPEN YOKOHAMA”を体現する街と街をつなぐ新たなにぎわい拠点としての新市庁舎の実現を目指した。低層部の市民開放、地域との連携、行政機能・議会機能に求められる要素を市職員と共に議論・検討し、あるべき新市庁舎の骨格・求める性能を取りまとめた要求水準を作成。高品質な提案を引き出す技術提案の課題設定・評価基準を盛り込んだ発注支援をはじめ、要求水準・技術提案のモニタリング、コスト管理、スケジュール管理、開業・運営準備などプロジェクトの各フェイズにおいて一貫した支援を実施し、プロジェクトの完遂に貢献した。

Renovation / Office



撮影／リリカラ

ミネベアミツミ 東京クロステックガーデン

■建築主／ミネベアミツミ
■構造／S一部RC・SRC造（制震）
■規模／地下4階 地上28階 54,214㎡
■実施設計・施工／鹿島、高島屋スペースクリエイツ、丹青社、リリカラ、爆団、乃村工藝社、富士古河E&C、新日本空調ほか
■竣工／2023年3月 一部2023年7月（改修工事）
■業務／PM（山下設計・山下PMC JV）、基本設計・実施設計監修・監理

PM＋基本設計・実施設計監修・監理により、短期間での本部機能の移転を実現した改修プロジェクト

武石 和真
本社
プロジェクトマネージメント部
主任

ミネベアミツミグループが本部機能と研究開発機能の一部を移転・集約し、社内外のシナジー効果を高めるための改修プロジェクト。基本設計着手からオフィス機能移転完了までを15カ月内で実現することが必達条件であった。20を超える関連工事等の発注から完成までを総合的にマネジメント・監修・監理することでその実現を図った。業務特性に応じたフロアスタッキング／レイアウトの構成や、グリーンの配置、既存建物の特長である各階の吹き抜けを活用したコミュニケーションスペースの多数設置など、オフィス環境を全面的に刷新している。来訪者が技術や製品を見学可能なショールーム等のある文化交流施設フロアは、今夏以降グランドオープン予定。

撮影／クドウフォト

T-LITE

■建築主／東洋海事工業
■構造／S一部SRC造
■規模／地下2階 地上17階 26,225㎡
■施工／【建築】大林組【電気・空調・衛生】九電工
■竣工／2022年3月
■業務／設計・監理

空間の多様性を引き出すオフィス環境づくり

水越 英一郎
ジェネラルアーキテクト

渋谷 京亮
本社
第2設計部
主管

T-LITEは都市再生特別地区（虎ノ門一・二丁目地区）に位置するテナントオフィスを主体とした複合施設である。均質性を是とする従来のテナントオフィスに対し、建物の骨格自体が空間の多様性を引き出す新たなオフィスの在り方を模索した。不整形な敷地形状をトレースした建物外形とセラミックプリントを施したカーテンウォールが生み出す光の変化は、執務環境に個性を与える。均質なオフィスでは得られない距離感や光環境等、空間のムラを積極的に取り入れることでABW（Activity Based Working）にも対応しやすい基盤をつくりだしている。また、環境面ではCASBEE-建築評価認証Sランク、LEEDゴールド、東京都建築物環境計画書制度段階3など、高水準の目標を達成している。

千葉中央コミュニティーセンター

■建築主／千葉市
■構造／SRC一部RC造
■規模／【改修前】地下3階 地上10階 51,801㎡
【減築・改修後】地下3階 地上4階 28,349㎡（予定）
■竣工／2027年12月（予定）
■業務／設計・監理

ストックの価値を高める減築

濵田 貴広
本社
第1設計部
主管

本施設は2023年時点で築49年となり、内外装や設備の全面的な更新時期を迎えている。ストック活用の最大の目的はコストの縮減である。私たちはできるだけ少ない手数でストックの価値を高める「費用対効果の大きな減築」を目指す。例えば施設中央に大きな吹き抜けを設けることで採光を確保し、明るく快適な室内環境を生み出す。既存の地下空間をクールヒートピットに転換し地中熱利用を行う。プロムナード沿いの1スパンを減築することで歩道の安全性や見通しを改善、敷地を超えて都市の魅力の向上に寄与する計画を目指す。本プロジェクトが減築・改修の先導事例として参照され、今後急増するストック活用型のまちづくりに寄与することを期待している。

撮影／スタジオムライ

氷見市庁舎

■建築主／氷見市
■構造／【増築部分】S造
【既設部分】SRC一部RC造
■規模／地上3階 7,890㎡
■施工／【建築・電気・空調・衛生】名工建設
【外構】氷見土建工業
■竣工／2014年4月
■業務／設計・監理（山下設計・浅地設計JV）

体育館から市庁舎へのコンバージョン

吉田 雅純
本社
リニューアル設計部
専門技師

廃校となった高校の体育館と校舎を、極力既存の状態のままにして高校の記憶を残しながら、改修費用を抑えて市庁舎に改修した。多くの地方都市が抱える「増加する既存ストックの有効活用」を、旧庁舎が抱えていた災害対策、バリアフリー対応、市民サービス向上等の課題とともに限られた予算の中で同時に解決するファシリティーマネジメントの実践である。体育館2階に設けた執務室は、無柱大平面で部課間のコミュニケーションがとりやすく、将来の組織編成の変更にも柔軟に対応できるフレキシビリティーの高いオープンな空間とし、船底型の幕天井を設けて上部窓からの採光・通風・眺望を確保しつつ、空間の気積を減らして空調効率を上げている。

オーイーシー社屋ビル

■建築主／オーイーシー
■構造／【新社屋】S造【既存社屋】RC造
■規模／地上5階 7,773㎡
■施工／梅林建設
■竣工／2023年11月（予定）
■業務／設計・監理
（梅林建設・山下設計JV）

新たな価値を生み続ける次世代オフィス

立石 直敬
本社
第1設計部
主任

カタチを持たないITテクノロジーを世界に発信し、地域に開かれ、多様な活動や交流を育む「ショーケース＝OEC CUBE」と、社員が好きな時間、好きな場所で、快適に働きやすい「多様性に富むオフィス環境＝Play Field」で構成する新社屋の増築計画。2層吹き抜けのOEC CUBEには大階段を併設させ、イベントや講演会等、多様な社内外協働を可能としている。執務空間は、設備計画と連動した6.0m×6.0mのグリッドゾーニングシステムを採用し、多様に変化する働き方やプロジェクトの状況に応じてユニットを可変できる柔軟性を持たせた計画としている。また、隣接する既存社屋の将来的な建て替え時に、建物一体でのZEB認証取得を見据え、新社屋単体でZEB Ready相当の環境性能を実現した。

東日本銀行本店ビル

■建築主／土地信託受託者：三井住友信託銀行
（土地信託委託者兼受益者：東日本銀行）
■構造／S一部SRC造
■規模／地下1階 地上12階 11,430㎡
■実施設計／清水建設
■竣工／2025年8月（予定）
■業務／基本設計・実施設計監修

「開放性」「柔軟性」「環境性」を高めた、勝ち残るためのテナントオフィス

河野 泰造
本社
企画開発部
主任

太田 羽
九州支社
設計監理部

本計画は、大規模オフィスを中心とした再開発が進む八重洲エリア内に位置する中規模クラスの単体オフィスビルである。そのため、競争の激しいエリアでも特徴的なテナントビルとして勝ち残るために、中規模クラスながらも大規模オフィスと同等のスペックを兼ね備えたハイグレードオフィスとなっている。さらに、基本設計の中で以下の3点の特徴づけを行い、差別化を高めている。【❶二つの大通りに沿った奥浅のL字平面と大型連窓による明るく開放的な専有部　❷専有部のコア付近の床を300㎜下げ、その範囲であれば水回りを自由に計画できる柔軟性　❸専有部の大型連窓（2面）は、アルゴンガス入りペアガラス、ほか2面は外壁主体とするなど、断熱性能を高めZEB ready取得に向けた取り組み】 これら大規模オフィスでは採用されにくい特徴を加え、激戦区で“選ばれる”ビルを目指した。

©ATTA - Atelier Tsuyoshi Tane Architects

帝国ホテル東京 新本館

■建築主／帝国ホテル
■規模／地下4階 地上29階 約150,000㎡
■デザインアーキテクト／Atelier Tsuyoshi Tane Architects
■竣工／2036年（予定）
■業務／基本計画（山下設計・日建設計JV）

次世代のホテル文化をリードする「新しいグランドホテル」「新しい迎賓館」

小林 順
本社
第2設計部
グループ長

インペリアルタワー（1983年竣工）に続き当社が計画に携わる帝国ホテル新本館は、先行する新タワー館と一体となり、TOKYO CROSS PARK構想（内幸町一丁目街区開発プロジェクト）の要となるプロジェクトである。同プロジェクトは「東洋の宝石」と言われたフランク・ロイド・ライト設計のライト館に匹敵する、次世代のホテル文化をリードする「新しいグランドホテル」「新しい迎賓館」にふさわしい姿を創り上げるものであり、デザインアーキテクトである田根剛氏※、またJVである日建設計との協力関係を最大限に生かして共に追求していく。長年にわたる帝国ホテル様との信頼関係を大切にしながら山下設計の100周年以降を見据えた新しい価値を創造するための最重要プロジェクトと位置付けられている。
※田根剛氏（ATTA - Atelier Tsuyoshi Tane Architects）

撮影／新津写真

ポルトムインターナショナル北海道

■建築主／新千歳空港ターミナルビルディング（現 北海道エアポート）
■構造／S一部SRC造
■規模／地下1階 地上8階 21,639㎡（A工区ホテル範囲）
■竣工／2019年12月
■施工／【建築】大林・戸田・萩原・伊藤・田中・菱中JV
【電気】関電工・日本電設・三共・浅海JV
【空調】高砂・新日空・池田暖房・大洋設備JV
【衛生】太平・斎久・エス・トラストJV
■業務／設計・監理、空港再整備工事設計（日本空港コンサルタンツ・梓設計・山下設計・えんれいしゃJV）

「日本の美と文化」を発信する国際線ターミナル直結のラグジュアリーホテル

岡崎 佐和子
本社
第2設計部
主任

小畑 真紀
本社
第2設計部
インテリアデザイナー

新千歳空港国際線ターミナルビル拡張に伴い計画された当ホテル。北海道に留まらず日本の玄関口である新千歳空港において「日本の美と文化でおもてなしする美術館ホテル」をコンセプトに、空間そのものを和のアートととらえ、宿泊することで日本文化の美しさを体験できるホテルを目指した。空間全体を通した体験となるように館内のシークエンスを重視。力強い左官作品が壁一面に広がるロビーを抜けると、客室階では大きな吹き抜けに吊り下がる草木染作品が鏡面の床「湖面」に美しく映り、大胆かつ静謐な空気を感じる。数寄屋・琳派・禅の室名を冠したスイートルームはそれぞれ趣の異なる美を演出。美術館という付加価値がここにしかない宿泊体験をもたらす。

撮影／びゅー写真工房

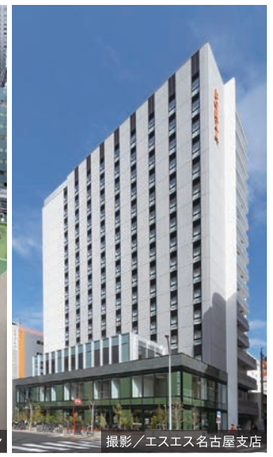
FORZA金沢

■建築主／K・R・E
■構造／S造
■規模／地上9階 6,458㎡
■施工／トーケン
■竣工／2019年8月
■業務／設計・監理

撮影／ジェイ・クリエーション

FORZA札幌

■建築主／福岡地所
■構造／S一部SRC造
■規模／地下1階 地上19階 11,343㎡
■施工／東急建設
■竣工／2020年4月
■業務／設計・監理


撮影／エスエス名古屋支店

FORZA名古屋

■建築主／中電不動産
■構造／S一部RC造
■規模／地下1階 地上16階 8,100㎡
■施工／鹿島
■竣工／2020年10月
■業務／設計・監理

くつろぎと居心地を追求した宿泊重視型スマートホテル

冨工 浩一郎
九州支社
企画営業部
主管

ホテルブランド「FORZA」シリーズは2007年立ち上げ時から携わり、企画設定や商品デザインのコンセプト、方針などをクライアントと二人三脚で築き上げてきた。今では、全国に全11棟あり、その全てに関わっている。外観デザインは、その立地ごとにスタディーを行い、景観や周辺環境と呼応するようなデザインとしている。内観デザインは、その時々の最新トレンドを取り入れ、利用者の居心地を最優先したデザインを構築している。その中でも、「柔らかさ」「あたたかさ」「ぬくもり」を感じさせるというホテルコンセプトは一貫し、さまざまな利用者の共感を得ている。多様なホテルが乱立する中で、ホテルブランド「FORZA」は確固たるアイデンティティーを確立した。

JWマリオット・ホテル奈良

■建築主／森トラスト
■構造／S一部RC造
■規模／地下1階 地上6階 18,145㎡
■施工／大成建設
■竣工／2020年2月
■業務／基本計画、基本設計（山下設計、大成建設）

奈良の歴史と風格を感じさせる 奈良県初の外資系ラグジュアリーホテル

仲田 康雄
本社
シニアアーキテクト

平城宮跡や東大寺、唐招提寺など、日本を代表する史跡へのアクセスに優れる奈良市中心部に位置し、コンベンションセンター、NHK奈良放送会館、商業施設、バスターミナルからなる新たな観光拠点づくりのゲートとしての役割を担っている。天平時代の寺社建築の特徴とされる骨太な独立柱が生み出す、街路に平行する空間の“抜け”と直行する視線の“抜け”により、街に対して開きながらもラグジュアリーホテルとしての静寂性を確保し、特別感のある佇まいを生み出している。柱間に挿入された短冊状の壁面は、祭祀の際にかけられる“几帳”をモチーフとしている。朝霞のかかる奈良の山並みの風景は、大成建設が提案したPCa版へのウォータージェットピーリングにより表現している。

撮影／エスエス名古屋支店

ロッテアライリゾート

■建築主／Lotte Arai Resort
■構造／RC・S造
■規模／地下1階 地上5階 58,691㎡
■施工／【1期】加賀田組、船場
【2期】北野建設、きんでん、ダイダン、Jフロント建装、高島屋スペースクリエイツ
■竣工／2017年11月
■業務／設計・監理

地域と共存する最高のプレミアムマウンテンリゾート

服部 久雄
関西支社
設計監理部
グループ長

本プロジェクトは、2006年に運営を停止した旧アライマウンテン&スパの全面復旧に加え、「地域と共存する最高のプレミアムマウンテンリゾート」をテーマに、新しいデザインと最新の設備を付加することで、国内および海外からの多くのお客様に楽しんでいただける、アジア屈指のハイクラスリゾートを生み出すことが大きな目標であった。既存の躯体や内装は劣化度調査により安全性を確認した上で再利用とし、建築設備は再利用可能なものは生かしつつも、照明は全てLED化、設備機器本体は全て高効率・変流量タイプに交換を行った。また、外装の刷新と高断熱仕様を兼ねて一部のホテル棟は外断熱工法による改修を施すなど、省エネ化・環境への配慮を図った。

パース提供／山下設計・丸川建築設計JV

倉敷市中央斎場

■建築主／PFI倉敷中央斎場
■構造／SRC一部RC・S造
■規模／地上2階 4,192㎡
■施工／西松・目黒JV
■竣工／2024年8月（予定）
■業務／設計・監理（山下設計・丸川建築設計JV）

自然と共生する森の斎場

松原 嘉一
本社
第2設計部
主任

伝統的な町並みを持つ倉敷市の種末山頂部に位置し、火葬炉13基を備える斎場の建て替え計画である。周囲の山並みとの連続を意図した屋根の重なりを持ち、故人が過ごした瀬戸内の風景を取り込むように開口を設け、外部に開かれた構成とした。遺族の心情に合わせて選択できる多様な待合空間や共用部を中庭に面して設けることにより、内部でも光や緑を感じられる静寂な空間を創り出している。また、大規模施設の配慮として、内部空間を適切に分節し、会葬者の居場所をつくり、各室の仕上げにも変化をつけた。既存施設で使用されていた県産の万成石を再利用したランドスケープや、火葬炉の排熱利用等、環境面にも配慮を行い、自然との共存を目指した。

撮影／AOスタジオ

富山霊園富山市斎場

■PFI事業発注者／富山市
■建築主／あおぎの
■構造／RC・S一部SRC造
■規模／地上2階 3,488㎡
■施工／【建築】佐藤工業 【火葬炉】宮本工業所
■竣工／2022年3月
■業務／設計・監理

立山連峰を仰ぐ風景と共に、故人をしのぶ場づくり

古川 香散見
本社
第1設計部
主管

富山市の火葬需要を主に担う火葬炉12基を備えた大型斎場である。立山連峰の麓に広がる田園の中、常願寺川に隣接した敷地特性を生かし、富山の風景を一望できる開放的な葬送空間と大型斎場の円滑な運用の両立を実現した。待合は2階に集約し、山・川・田園風景を満喫できる空間とし、せり出した待合空間による長く深い車寄せは、大型斎場として集中する入退場をスムーズにするとともに、雨や雪の日にも滞りなく儀礼を行える機能となっている。場内で待つことが少なかった街中から離れた斎場の地で、火葬中も故人の近くで、故人が慣れ親しんできた風景と共に過ごす、新たなお別れの場となることを期待している。

Education

都立南多摩地区特別支援学校（仮称）

■建築主／東京都
■構造／RC一部S・SRC造
■規模／地上4階 13,815㎡
■施工／【建築】三井住友建設【電気】栗原工業【空調】八重洲・酒井建設JV【衛生】菱和設備
■竣工／2024年1月（予定）
■業務／設計・監理

多摩の自然と共存する環境配慮型施設

戸邉 亮司
本社
第1設計部
主管

本建物は、知的障害教育部門高等部を設置する学校である。回遊性のあるロの字型の機能的平面校舎の外周（北側を除く）に教室を配置した。大空間の体育室とプールは校舎中央上階に配置し、建物外周ボリュームを軽減し周辺環境に配慮した。校舎外周はコの字柱とアルミルーバーにより日射・視線制御、間接光取り込み等、多機能で奥行きと陰影のある外観を形成する。また、縦ルーバー状の柱で体育室は西日制御、プールは視線制御と日射取得を制御するなど、構造、環境、意匠を統合する機能的外観を創出した。外構は周辺の緑豊かな多摩の植生を考慮した植栽計画とした。将来的には周辺の雑木林と一体となり四季の変化を感じる豊かな緑地の中の学びの環境となる。

撮影／スタジオナップス

一関市立東山小学校

■建築主／一関市
■構造／RC一部S造
■規模／地上2階 6,105㎡
■施工／【建築】平野組【電気】金澤電気工業所【機械】永沢水道工業
■竣工／2020年12月
■業務／設計・監理

増築と全面改修により理想の教育環境を追求

渡邊 匠
東北支社
設計監理部
主管

本事業は1974年竣工の小学校を、増築と既存校舎の長寿命化改修によりリニューアルしたプロジェクトである。RC壁の中性化抑制・外壁/防水改修といった耐久性向上に加え、3カ所に分けた増築と内装の全面改修により、機能面も向上させることで理想の教育環境を追求した。改修により、クランクしていた廊下を、2本の廊下が直線に通るツインコリダー型平面に変更し、床を一部撤去して吹き抜けを設けるなど、見通しが良く見守りやすい校舎とした。また、工事費を含めたライフサイクルコストを想定耐用年数の40年で試算した結果、長寿命化改修を実施した場合と未実施の場合のコストが同程度であったため、コスト面でのストック活用の意義も確認できた。

撮影／スタジオムライ

いなざわ特別支援学校

■建築主／愛知県
■構造／RC一部S造
■規模／地上3階 8,298㎡
■竣工／2014年2月
■業務／設計・監理
■施工／校舎【建築】榊原建設（第1工区）、中村工業（第2工区）【電気】トーエネック【空調】森銀【衛生】籠宮工業
体育館【建築】昭和土建【電気】メイデン【衛生】大野設備工業
プール【建築】寺西建設【衛生】ハヤカワ工業
屋外【衛生】舟橋設備【環境整備】稲栄産業

人と人の関わり合いを大切に地域と共生する学校

伊藤 里沙
中部支社
設計監理部
主任

いなざわ特別支援学校は、知的障害のある児童が小中高と一貫した教育を受けることのできる学校である。普通教室や特別教室をロの字で構成し、施設全体に回遊性を持たせる構成とした。ランチルームやプレイルーム等は中庭を囲んで分散配置し、児童の動線上に交流の場を計画した。普通教室を2教室1ユニットで計画することで、弾力的な教育に対応している。また、地域開放する体育館とランチルームは周辺から訪れやすい位置に配置し、地域共生の場を計画した。児童生徒が社会へ巣立つまでに、人と人の関わり合いの中で自立した社会生活を営むための教育の場と地域に開かれた学校を目指した。

琉球大医学部

■建築主／琉球大学
■構造／RC一部S造
■規模／地下1階 地上13階 50,960㎡
■施工／戸田・西松・大城・屋部JV
■竣工／2024年10月（予定）
■業務／実施設計
（【構造】戸田建設、西松建設）・監理

地域の景勝地を保ち、新たな地域のランドマークとなるキャンパスづくり

有馬 大蔵
本社
第1設計部
チーフアーキテクト

計画地は2015年に返還された西普天間住宅地区である。ここに、琉球大学医学部を移転し、国際性・離島の特性を踏まえた沖縄健康医療拠点を整備する。キャンパスの中心には高層の医学部研究棟および病院を配置し、各施設群を機能的に接続することなどにより、医療人材の育成、産業振興の促進、高度医療の拠点形成が可能となるキャンパスを目指す計画である。医学部建物は、隣接する病院と同様に県道81号線からの海への眺望を阻害しない南北に長い配置計画としている。また、外観は白を基調とした淡いコーラル色をベースに、建物の周りには地域の景観材料や樹種を採用した広場を設け、新たな地域のランドマークとしての地域の景観づくりに寄与している。（パースは設計段階でのイメージであり、今後変更となる場合があります。）

名古屋大学EI創発工学館

■建築主／東海国立大学機構
■事業主／なごや東山アカデミックサービス
■構造／S一部CFT造
■規模／地上9階 17,053㎡
■施工／鴻池・池田JV
■竣工／2023年9月（予定）
■業務／設計・監理
（山下設計・鴻池組JV）

多様な学びと交流のプラットフォーム

小林 史
中部支社
設計監理部
部長

キャンパスの中心に位置し、産学官連携およびイノベーションの創出を目指す教育研究拠点施設である。研究・実験室や講義室を積層した高層の教育研究棟と食堂や購買を設けた福利厚生棟を配置し、これらを屋内外に横断する通り抜け空間でつなぐ構成とした。キャンパスの人々の流れを呼び込む通り抜け空間を軸に、研究成果を発信するエントランスロビーや異分野交流を促す吹き抜け空間、学生がにぎわう広場へとつなげることで、新たな学びへの興味と交流を生むプラットフォームとなることを目指した。最上階の展望ラウンジは、学内外を超えた人々が集まるマグネットスポットとなり、建物のシンボルとなっている。

写真提供／近代建築社、川合写真事務所

伊勢市立みなと小学校

■建築主／伊勢市
■構造／RC一部S造
■規模／地上3階 8,086㎡
■施工／【建築】西邦・伊藤・吉川JV【電気】シンフォ・植田JV【機械】杉山・野村・神都JV
■竣工／2021年1月
■業務／設計・監理
（山下設計・西井設計JV）

地域をつなぎ、災害時の拠点となる「交流デッキ」

伊藤 潤
中部支社
設計監理部
副グループ長

蜂須賀 健太
中部支社
設計監理部
副グループ長

二つの小学校の統廃合をきっかけに、相互の地域をつなぐ地域コミュニティーの核となり、災害時の地域避難拠点となる小学校である。津波による浸水想定高さを超える2階以上に普通教室と体育館を配置し、これらを広場でつなぐ構成とした。校舎の中心には、オープンスペースを連続的に設け、教室と一体的に使った授業の様子や、音楽室で合唱する児童の声など、児童の五感や好奇心を刺激し、さまざまな気付きに出会う場所とした。昇降口付近にはメディアスペースを設け、自然に本と触れやすい環境をつくっている。3階には外部から直接アクセスできるホールを設け、家庭科室と一体的に利用できるしつらえとし、災害時には炊き出しもできる地域の避難所となる。

撮影／IT IMAGING

君津市学校給食共同調理場

■建築主／君津市
■構造／S造
■規模／地上1階 3,724㎡
■竣工／2019年1月
■業務／設計・監理
■施工／【建築】村本・新昭和JV
【電気】小峯電業
【空調】綜和熱学工業
【衛生】協同建設【ガス】相川精機
【駐車場】上総建設【厨房】タニコー

安全で快適な調理環境と食育施設の両立

中野 裕正
本社
企画開発部
シニア
アーキテクト

古川 香散見
本社
第1設計部
主管

君津市学校給食共同調理場は、学校給食を安全に提供するとともに、児童や市民の「食育」を併せ持つ食の施設である。食材搬入→調理→配送のワンウェイ動線により、効率的で安全な調理を実現している。調理場外周に食のクイズをちりばめた周遊回廊を設け、周囲の田園風景を感じながら「君津の給食」を学ぶ施設整備とした。調理エリアと同じ1階に見学窓を設け、調理員も地域の風景や自然光を享受できる構成とした。見学者と調理員の双方が調理の流れや場所を認識しやすいように、大きな漢字「煮」「洗」等のサインを設け、調理の効率・安全性に有効な施設整備と食育の両立を実現した。

撮影／スタジオセゾン

日本ガイシ多治見工場

■建築主／日本ガイシ、NGKセラミックデバイス
■構造／S造
■規模／地上2階 35,322㎡
■設計・施工／大林組
■竣工／2019年2月
■業務／CM

NGKセラミックデバイス多治見工場

清水 英俊
本社
プロジェクト
マネージメント部
チーフプランナー

拡大基調の半導体市場に対応するため日本ガイシ/NGKセラミックデバイスは、半導体製造装置用セラミックを製造する施設として、岐阜県多治見市に新たな土地を取得し、工場を建設した。約20万㎡弱の広大な敷地に延べ面積約3.5万㎡の大規模な工場建設計画を短期間で実現したCM業務となる。竣工時期を守るため、建設資材長納期等への対応として設計施工一括の発注方式を採用。業務開始から約2カ月間で基本計画策定・発注支援を実施、設計施工者選定・設計・施工期間を経て、合計2年弱という短期間で施設の完成を実現した。

新貝工場全景

常光製作所第5棟　撮影／エスエス名古屋支店

新貝工場2棟　撮影／エスエス名古屋支店

都田製作所4棟　パース提供／大林組

本社工場14棟　撮影／エスエス名古屋支店

浜松ホトニクス新貝工場を含む一連の業務

■建築主／浜松ホトニクス

トリリオン・センサ時代に対応する自由度の高い生産拠点

浅野目 聡
中部支社
設計監理部
シニア
アーキテクト

蜂須賀 健太
中部支社
設計監理部
副グループ長

山口 直希
中部支社
設計監理部
主管

光関連の電子部品や電子機器を製造・販売する浜松ホトニクスの事業拡大に伴い、各拠点での建設計画に関する設計・監理業務やCM業務を行った。設計では、めまぐるしく変化する生産活動に対応した自由度の高い生産施設とすること、BCPの強化やZEB・カーボンニュートラル・Wellnessの推進など持続性を高めた施設づくりを行うこと、世界中からクライアントが訪れるグローバル企業として先進の光技術を世界に発信し続ける拠点を実現することを目指した。CM業務では構想段階から建物竣工に向け、クライアントのさまざまなニーズを実現するため、品質・工程・コスト管理を含めたプロジェクト全体のマネジメントを行った。

社是「クライアントへの誠実」とは

その「クライアント」の意味するものは、「施主だけではなく、社会からの要請」と考え、「デザインを包含した総合的価値観から建築や都市のつくり方やシステムに関わることで、プロジェクトの価値を高める姿勢」を指して、「クライアントへの誠実」と定義しています。創立95周年に至る5年間は、「社会からの要請」という意味では、「コロナ禍」「自然災害」「円安による生産拠点の国内回帰」「ロシアのウクライナ侵攻」「ポピュリズムの台頭」などにより、大きく社会的な価値観が揺れ動いた時期でした。

社会的価値観の変化

特に、コロナ禍による未曾有の混乱は、人々の生活を大きく変化させ、日本社会で進まなかった働き方改革やテレワークを急激に推し進め、さまざまなビジネスモデルの見直しを迫ることになりました。都心や駅に近い利便性のよい場所における高度利用を前提とした開発手法が成り立ちにくくなりつつあるのは、シェアリングエコノミー・サブスクリプションサービスなどがさまざまな分野で導入され、建築においてもシェアオフィスなどにより、場所を所有するという概念そのものに疑問符が投げかけられているためと考えます。

一方で日本社会が抱える恒久的な問題である「少子高齢化」や人類共通の課題である「脱炭素」については、その深刻さが急速に増した時期でもありました。

「少子高齢化」については、4月の厚生労働省の推計結果によると、2070年の日本の総人口は8700万人に減少します。また、総人口に占める65歳以上の割合は20年の28・6％から70年には38・7％に上昇することを踏まえると、約3500万人の高齢者を同数以下の就業人口で賄いつつ、国際的な競争力を強化するため医療・教育システムにおいて、少ない人材を生かすための量から質への改革が必要となっています。

また、脱炭素社会の実現に向けては、エネルギー政策・モビリティーの転換に加えて、社会全体の中でのCO_2排出量の約4割を占める建設活動については、環境省・経済産業省・国土交通省より、「2030年には新築建築物のZEB水準省エネ性能確保」、「2050年にはストック平均でZEB水準省エネ性能確保」という方針が示され、環境性能が不動産価値に直結する状況になっています。

多様性を受け入れる姿勢

このように、この5年間は人々の価値観の共通解を見つけやすかったかつての右肩上がりの大量消費の時代に比べて、多様化してきた判断基準が明確でない人間の価値観に対して、建築も含めた社会のシステムがうまく機能できていない状況が、さまざまな社会変動により顕在化したものと見て取れます。

山下設計は、かつての社会的価値の変動期の判断基準が明文化されていない状況において、技術的な試行錯誤はもちろん、社会が許容するものが何かを追求してきた組織です。過去における社会の転換期の対応として、1968年の霞が関ビルディング設計においては、土地の高度利用に伴う31m以上の高層化という前例のない要請に対して、剛構造から柔構造への転換を行うことで、当時の判断基準が明文化されていない「安全性」という概念に対して、人々がどのようなことを許容できるかを考えながら答えを導いてきた経験を持っております。

現在の多様化してきた人間の価値観に対して、さまざまな意味で「選択性を高めること」がひとつの答えになります。

選択性を高める提案

土地の高度利用の限界に対しては、開発地域のみで無理な経済効果を期待するのではなく、場所の特性に応じた余白のある開発手法を用いることで、人口減少に対応しながら、地域の持つ独自の産業や文化活動と結びついた余白の利用を促すなど、街全体としての将来にわたる選択性を確保することが必要です。

また、少子高齢化の問題については、在宅医療による日常生活をしながらの治療や働きながらの治療などの選択肢を与えることが、労働人口を確保していく手段の一つとなります。そのためには、限られた医療従事者を念頭に、「生き残る医療の在り方」として、単体の医療施設ではなく、地域医療全体のシステムに関わっていくことが求められます。

脱炭素の問題についても、時代に応じて用途や機能が変化してしまったことにより、建築の物理的寿命を待たずに社会的寿命を迎える建築が多い状況を踏まえ、単なるストック型への意向ではなく、各プロジェクトの状況に応じて、保存・再生・仮設といった適正な建築の時間軸を意識した選択性を与えることが重要です。

山下設計の100周年そして未来に向けた方向性として、多様な価値観に対して「選択性の高い解決案」を提案するためには、プロジェクトを多面的にとらえなければなりません。既存の計画手法から離れ、AIの活用によるシミュレーションなどによる幅広い検討や、建築の分野を超えた専門家と協働することで、設計事務所の業務領域にとどまらずに、総合的価値観から社会のシステムに関わる組織として、新たな時代を切り開いてまいります。